

第 98 回日本細菌学会関東支部総会報告

東京歯科大学 微生物学講座
石原和幸

第 98 回の日本細菌学会関東支部総会は、平成 27 年 10 月 28 日（木）、29 日（金）両日東京歯科大学血脇ホールにて開催され、無事終了することができました。

今回の支部総会は、4 年ぶりに細菌学会単独での開催となりました。一般演題では、初日の午前・午後および 2 日目の午前に渡り行われ、活発な討論が行われました。参加者および座長を務めて頂いた先生方にお礼申し上げます。

今回の支部総会では、初日に、長崎大学口腔病原微生物学 中山浩次教授による特別講演“細菌の新しい分泌システムと滑走運動”では、細菌の type IX secretion system と滑走運動についての講演をいただき、活発な討論が展開されました（写真）。



2 日目のシンポジウムでは、“運動・分泌マシナリーから見えるバクテリアの新しい世界”をテーマに、学習院大学中根大介先生による“シアノバクテリアが光の無機を認識して運動する仕組み”、東京慈恵会医科大学杉本真先生による“8 型分泌装置の発動における細胞質分子シャペロンの機能”、東北大学中村修一先生による“スピロヘータ運動の仕組みと意義を考える”、静岡大学田代陽介先生による“細菌の浮揚性を司る細胞内オルガネラ「ガス小胞」”、法政大学笠井大司先生による“マイコプラズマ滑走運動におけるシアル酸オリゴ糖の役割”、立教大学塩見大輔先生による“バクテリアの形を決める分子メカニズム”のタイトルで講演が行われ、活発な討論が展開され、特別講演の中山浩次の講演とも繋がり、細菌の形態・バイオフィーム形成・運動といった生理機能についての理解を深める良い機会となりました。

今回の学会は、教室関係者のみで全て行いましたので、行き届かない点等が多々あったと思います。この場を借りてお詫び申し上げます。最期に演題発表および参加を頂いた会員の皆様に深く感謝申し上げます。